

第60回沖縄県小・中学校長研究大会国頭大会要項

1 目的

校長の職務並びに教育活動について研究を深め、資質の向上を図るとともに、教育課程の取組を通して沖縄の現状を直視し、小・中学校教育の本質に立って、より充実した教育活動の展開を図る。

2 大会主題・趣旨

【小学校】

(1) 大会主題

「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
～豊かな社会力を身につけた子どもを育て、魅力ある学校経営を推進する校長の理念と指導性～

(2) 趣 旨

沖縄県小学校長会では、平成25年度より全国連合小学校長会の研究主題を受け、大会主題を「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」と改め、教育の理念と本質に基づいた適切な教育活動の在り方や時代の要請・社会の変化に対応できる教職員の資質の向上を中核に据えて研究・実践に取り組んでいるところである。

ところで、今日の社会では、情報化やグローバル化が急速に進展する一方で、少子高齢化、人間関係が希薄化、家庭や地域社会の教育力の低下などの問題が深刻化してきている。学校においても、子どもたちの学ぶ意欲や自尊感情、規範意識の低下に起因する学級の荒れやいじめ、不登校等の問題行動が起きてきている。また、東日本大震災からの復興というこれまでに経験したことのない事態への対応を通して、私たちは、人間的な絆や支え合う仕組みを重視する社会を築いていく子どもたちを育てることの重要性を認識した。

このような時代の変化や課題に立ち向かうには、将来を担う子どもたちが変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り拓いていく力を身につける日本人の育成を目指していかなければならない。

沖縄県小学校長会では、九州地区小学校長協議会の取組を踏まえ、平成26年度から副主題を「豊かな社会力を身につけた子どもを育て、魅力ある学校経営を推進する校長の理念と指導性」と設定した。「豊かな社会力を身につけた子ども」とは、基礎的・基本的な知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を活用し、主体的に学習に取り組む態度等の学力を身につけるとともに、それらを、人とつながり協力しながらよりよく生活をつくり変えていくことに生かす子どもである。豊かな社会力を身につけていくためには、多様な他者への関心や愛着を育み、信頼関係を築くことによってよりよい集団をつくろうとする意欲と、それを実現するための構想力と実践力を育む教育が必要である。このことは、仲間と協力して学び合うなど人間関係づくりを通してたくましく生きる子どもを育てることであり、人間性豊かな社会を築くことにつながっていくと考える。また、「魅力ある学校」とは「いじめがなく安全安心な学校」「自己の成長が感じられる学校」「学ぶことが楽しいと思える学校」「学校行事等特色ある取組を行う学校」「学校教育目標に一丸となって取り組む学校」のことであると捉えている。

平成27年度の九州地区小学校長協議会研究大会沖縄大会においても、このように大会主題を掲げ、研究を深めるとともに、更なる研究・実践に努めているところである。

そこで、本研究大会においても、全国連合小学校長会と九州地区小学校長協議会の大会主題を踏まえ「豊かな社会力を身につけた子どもを育て、魅力ある学校経営を推進する校長の理念と指導性」を副主題に設定し、各分科会の研究協議を通して、学校経営の責任者である校長の理念と指導性を究明していきたい。

【中学校】

(1) 大会主題

新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育

(2) 趣 旨

全九州中学校長協議会は、全日本中学校長会の研究主題を踏まえ、第70回全九中佐賀大会より「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」を大会主題として研究を進めることとした。

現代社会は、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、絶え間のない技術革新等により、社会構造や雇用環境が急速に変化し、生徒が将来就く職業の在り方も大きく変わることが予想されている。このような変化が激しい時代を担っていく生徒は、自立した人間として、文化や伝統に立脚し、多くの人々と協働しながらよりよい社会を創造する力を確かに身に付けることが求められている。

平成29年3月には、新学習指導要領が告示された。新学習指導要領は、生徒が未来社会を切り拓いていく力をよりいっそう確実に身に付けるために、目指す資質・能力の明確化、「主体的・対話的で深い学び」の実現に培う授業改善、地域社会との連携・協働、社会に開かれた教育課程の推進などが示されている。

校長は、確固たる教育理念と学校経営の責任者としての使命感をもって、新教育課程への円滑な移行を実現し、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育を確実に進展させていかなければならない。

第60回国頭大会においては、これまでの研究成果を踏まえつつ、生徒一人一人がよりよく生きるための資質・能力を育てていくことを目指して、全中学校長の熱意と創意を結集して協議を深め、沖縄県中学校教育の一層の充実・発展に寄与するものとする。

- 3 主 催 沖縄県教育委員会 沖縄県小・中学校長会
- 4 共 催 名護市教育委員会
- 5 後 援 沖縄県市町村教育委員会連合会 国頭地区市町村教育委員会協議会
沖縄県PTA連合会 国頭地区PTA連合会
- 6 期 日 令和元年11月13日(水)・14日(木)・15日(金)
- 7 会 場 全体会(1日目):名護市民会館(大ホール)

〈分科会会場〉

【小学校】

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 第1分科会:名護中央公民館(第1・2研修室) | 第2分科会:名護中央公民館(小ホール) |
| 第3分科会:名護市労働福祉センター(ホール) | 第4分科会:名護市労働福祉センター(会議室1) |
| 第5分科会:名護市労働福祉センター(会議室2) | 第6分科会:21世紀の森体育館(第1会議室) |
| 第7分科会:21世紀の森体育館(第2会議室) | 第8分科会:21世紀の森体育館(ミーティングルーム1) |
| 第9分科会:21世紀の森体育館(ミーティングルーム2) | 第10分科会:あけみおSKYドーム(会議室) |

【中学校】

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 第1分科会:北部生涯学習センター(研修室1) | 第2分科会:北部生涯学習センター(研修室2) |
| 第3分科会:北部生涯学習センター(研修室3) | 第4分科会:北部生涯学習センター(研修室4) |
| 第5分科会:北部生涯学習センター(研修室6) | 第6分科会:北部生涯学習センター(研修室7) |

【教育懇談会会場】名護市民会館(中ホール)

第60回 沖縄県小・中学校長研究大会（国頭大会）日程

令和元年 11月13日(水)～15日(金)

11月13日(水)			11月14日(木)			11月15日(金)		
時間	行事	内 容	時間	行事	内 容	時間	行事	内 容
9:00			9:30	受付	名護市民会館大ホール	9:00	受付	名護市民会館大ホール
9:30			10:00	開会式	1 開式のことば 2 国歌斉唱 3 あいさつ・大会長・県教育長 4 祝辞・沖縄県教育委員会連合会・県PTA連合会長 5 歓迎の挨拶 名護市長	9:30	全体会	1 部・委員会活動報告(20) (1)調査研究部 (2)学力向上推進委員会 2 大会宣言文報告(10)
10:00			10:30	50	6 来賓紹介 7 祝電披露 8 閉式のことば	10:00		準 備(10)
10:30					準 備(10)	10:10	記念講演	講演(案):「社会に開かれた教育課程」 「学校運営協議会・ コミュニティ・スクールの実践」 講師: 広島県府中市立明郷学園 学校運営協議会 会長 立石克昭 氏 広島県府中市教育委員会 学校教育課 主幹 宮田浩治 氏 記念品(花束)贈呈
11:00			11:00	教育長講話	教育長: 平敷 昭人 演 題: 「本県教育の課題と対策」 (仮)	11:00	90分	
11:30			12:00	昼食	昼 食(45分)	11:30		準 備(10)
12:00			12:30	60	分科会移動・準備(15分)	12:00	開会式	1 開式のことば 2 大会会長あいさつ 3 研究部長総括 4 激励のあいさつ 5 次期開催地区代表あいさつ 6 閉式のことば
12:30			13:00		分科会打合せ(20分)	12:10		※事務連絡(5)
13:00			13:20	分科会	◆小学校分科会場 ①名護市民会館(第1・2研修室) ②名護中央公民館(小ホール) ③名護市労働福祉センター(ホ-ル) ④名護市労働福祉センター(会議室1) ⑤名護市労働福祉センター(会議室2) ⑥21世紀の森体育館(第1会議室) ⑦21世紀の森体育館(第2会議室) ⑧21世紀の森体育館(ミーティングルーム1) ⑨21世紀の森体育館(ミーティングルーム2) ⑩あけみおSKYドーム(会議室) ◆中学校分科会場 ①北部生涯学習センター(研修室1) ②北部生涯学習センター(研修室2) ③北部生涯学習センター(研修室3) ④北部生涯学習センター(研修室4) ⑤北部生涯学習センター(研修室6) ⑥北部生涯学習センター(研修室7)	12:50		
13:30			14:00	220分	【分科会の進行情例】 ①開会通知・係紹介 ②司会者あいさつ ③提案発表 ④質疑応答 ⑤各地区発表(6分×5地区) ⑥質疑応答 ⑦研究協議題設定 ⑧研究協議 ⑨指導助言 ⑩閉会通知・諸連絡	13:00		
14:00			14:30			13:30		
14:30			15:00			13:50		
15:00	役員・地区会場会	・場所:(名護市民会館) ・参加者:県役員(正副会長、県総務・研究部長)、各地区会長 開催地区役員(大会実行委員長、副委員長、総務・運営・研究部長、式典担当、総司会、来賓接待他) ・打ち合わせ事項 大会運営・役割分担の確認 ・式典進行の確認 ・来賓接遇の確認 ・開催地区からの調整 ・その他の調整	15:30			14:00		
15:30	90分		16:00			14:30		
16:00			16:30			15:00		
16:30			17:00		会 場 移 動(30分)	15:30		
17:00			17:30	教育懇談会	会場:名護市民会館 (中ホール)	16:00		
17:30			18:00	90		16:30		
18:00			18:30			17:00		
18:30			19:00			17:30		
19:00			19:30			18:00		
						18:30		
						19:00		

9 運営方針

- (1) 研究の成果が本県教育の発展、学校運営上の課題解決の重要な手がかりとなるようにする。
- (2) 研究は地区会員全員の共同研究のもとに広がりや深まりのあるものとする。
- (3) 大会運営の効率化を図るため、各部が適切な分担をして推進する。
- (4) 前年度までの反省を生かし、新しい課題を追究する。
- (5) 県小・中学校長会の主体性を堅持しつつ、他機関との連携を密にする。
- (6) 記念講演会の企画・立案は担当地区が担い、実施に当たっては、県総務部との連携を密にする。
- (7) 各分科会の研究協議内容は、大会集録にまとめる。なお、大会集録は冊子にせず、電子媒体で校長会事務局で保管する。

10 大会主題及び分科会研究主題設定の視点

- (1) 沖縄県教育の現状と課題、県民の期待と要望を把握し、その解決を目指す。
- (2) 県小・中学校長会の運営方針に基づいて設定する。
- (3) 研究大会は、令和元年度全国、九州地区の大会主題や分科会研究主題及び研究の視点を配慮し設定する。
 - ・小学校の分科会は、全連小（13 分科会）・九小協の分科会（9 分科会）研究主題に関連させて設定する。なお、本県の喫緊の教育課題（学力問題）に対応するため、本県研究大会においては、第10 分科会（学力向上推進）を設定する。
 - ・中学校の分科会は、全日中（8 分科会）・全九中（6 分科会）の分科会研究主題に関連させて6 分科会とする。
※第70 回全日中群馬大会より大会主題が変更される。それに関連し第70 回全九中佐賀大会の研究主題・協議題も変更される。
- (4) 教育内容の質的転換が期待される教育課程について研究を深める。

11 研究の方向性

- (1) 主題に迫る上での学校経営上の課題は何かを明確に
 - 校長としての認識
 - 校長としての課題把握
- (2) 課題を解決するために
 - 校長としての視点（戦略的リーダーシップ）
 - ・ストラテジー（戦略。長期的な課題の解決、長期的な目標の達成）として、課題をどう捉え、どう考えたか。
 - ・同時にタクティクス（戦術。個々の実践での戦術。短期的な課題の解決、短期的目標の達成）の視点から、何をなすべきであると考えたのか。
 - 課題解決の過程での課題と対応
 - ・課題解決の過程で新たに発生した課題とその対応。ここでも、校長として、どう考え、何をなすべきかの視点から記述することが大切である。
- (3) これらの取組の結果・成果及び課題は何か
 - 児童・生徒の変容 ○教師の変容 ○保護者の変容 ○学校と地域との関係の変容 ○その他
 - ・主題を踏まえ、上記の視点等から事実を通して成果及び課題を述べる。
- (4) 研究協議のまとめ
 - 校長としての課題の捉え方、認識はどうであったか。
 - 校長としての「戦略と戦術」はどうであったか。
 - ・上記2点を客観的な視点から考察する。

1.2 分科会研究主題・協議題一覧

分科会領域	研究主題	協議題
第1分科会 「経営ビジョン」	先見性のあるビジョンに基づく創意ある学校経営の推進	①未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定 ②学校経営ビジョンに基づく創意ある学校経営の推進
第2分科会 「組織・運営」 「評価・改善」	学校経営ビジョンの具現化を図る組織づくりと運営並びに学校教育の充実を図る評価・改善の推進	①学校経営ビジョンの具現化に向けた活力ある組織づくりと学校運営の推進 ②「新たな知を拓く」教育を確かなものとする学校経営の評価・改善と学校評価・教職員評価システムを生かした学校経営の評価・改善
第3分科会 「知性・創造性」	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント	①「新たな知を拓く」教育課程の工夫 ②自らの生き方に自信をもち、夢と希望を育む教育活動の推進
第4分科会 「豊かな人間性」 「健やかな体」	豊かな人間性と健やかな体を育むカリキュラム・マネジメント	①新たな社会を見据えた人権教育と豊かな心を育てる道徳教育の推進 ②たくましく生きるための体づくりを図った教育活動の推進と主体的・実践的な能力や態度を育む健康づくりの推進
第5分科会 「研究・研修」	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進	①教員の資質・能力の向上を目指した研究・研修体制の充実 ②キャリアステージを意識した展望や学校経営への参画意識をもたせる研修の推進
第6分科会 「リーダー育成」	これからの学校を担うリーダーの育成	①学校教育への確かな展望をもち、行動できるミドルリーダーの育成 ②時代の変化をとらえる能力と豊かな人間性を身に付けた管理職人材の育成
第7分科会 「学校安全」 「危機対応」	命を守る安全教育・防災教育の推進並びに様々な危機への対応	①危機回避能力を育む安全教育・防災教育の充実と地域や関係機関との連携を図った安全教育・防災教育の推進 ②いじめや不登校等に適切に対応できる体制の整備と高い危機管理能力をもち組織・体制づくり
第8分科会 「社会形成能力」	社会形成能力を育む教育の推進	①社会の発展に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育の推進 ②自立・協働・創造の心を育むキャリア教育の推進
第9分科会 「自立と共生」 「連携・接続」	自立と共生を図り、実践的な態度を育む教育の推進並びに家庭・地域等との連携	①子どもの自立を図る特別支援教育の推進 ②家庭・地域と連携し充実した教育活動を展開できる学校づくりの推進
第10分科会 「学力向上推進」	「夢」を育む学力の向上を推進する校長の理念と指導性	①確かな学力の向上を推進する実効性のある具体的方策の在り方 ②家庭・地域社会と連携した学力向上の在り方

(2) 中学校

分科会領域	研究主題	協議題
第1分科会 「教育課程」	カリキュラム・マネジメントの推進	①教科横断的な視点を含めた教育課程の編成・実施・評価・改善の在り方 ②社会に関われた教育課程の実践の在り方
第2分科会 「確かな学力」	主体的・対話的で深い学びの実現	①主体的・対話的で深い学びの授業実践に向かう学校全体の体制づくり ②各教科等の学習状況の把握及び授業の評価・改善の在り方
第3分科会 「豊かな心」 「健やかな身体」	よりよく生きるための道徳性や健康・体力を育む教育の充実	①よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実 ②健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実
第4分科会 「自らの生き方」	自己理解を促し、将来にわたって人としての生き方を深める生徒指導とキャリア教育の充実	①他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実 ②基礎的・汎用的能力を育成するためのキャリア教育の充実
第5分科会 「学校経営」	地域や専門機関との連携・協働による「チーム学校」の実現とその機能強化	①「チーム学校」（チームとしての学校と地域との連携・協働制）構築の在り方 ②教職員の力量を高め、チームとしての組織力を高める学校マネジメントの在り方
第6分科会 「人材育成」	多様化した教育課題に対応できる教員の育成	①専門性と指導力を発揮する教員育成のための研修の在り方 ②学校経営に積極的に参画する教員育成のための人事評価の在り方

1.3 分科会研究分担 (案)

(1) 小学校

分科会	領域	平成30年度 (島尻)	令和元年度 (国頭)	令和2年度 (中頭)	令和3年度 (那覇) ※小単独開催	令和4年度 (島尻)	令和5年度 (国頭)	令和6年度 (中頭) ※中単独開催	令和7年度 (那覇)
	九小協開催県	鹿児島	宮崎	大分	福岡	長崎	佐賀	沖縄	福岡 (全国大会)
第1分科会	「経営ビジョン」	国頭	<u>国頭</u>	中頭	中頭	国頭	<u>国頭</u>	九小協 沖縄大会 ◆第3分科会 で中頭 地区提案 ※中学校 単独開催	中頭
第2分科会	「組織・運営」 「評価・改善」	那覇	島尻	<u>島尻</u>	那覇	那覇	八重山		八重山
第3分科会	「知性・創造性」	国頭	那覇	国頭	<u>国頭</u>	中頭	中頭		那覇
第4分科会	「豊かな人間性」 「健やかな体」	中頭	<u>中頭</u>	那覇	島尻	<u>島尻</u>	宮古		国頭
第5分科会	「研究・研修」	島尻	国頭	国頭	宮古	中頭	那覇		那覇
第6分科会	「リーダー育成」	中頭	宮古	<u>宮古</u>	八重山	<u>八重山</u>	島尻		島尻
第7分科会	「学校安全」 「危機対応」	島尻	中頭	那覇	<u>那覇</u>	<u>宮古</u>	島尻		島尻
第8分科会	「社会形成能力」	那覇	<u>那覇</u>	中頭	<u>中頭</u>	島尻	国頭		国頭
第9分科会	「自立と共生」 「連携・接続」	宮古	八重山	<u>八重山</u>	島尻	那覇	那覇		宮古
第10分科会	「学力向上推進」	八重山	島尻	島尻	国頭	国頭	中頭		中頭

①特ゴシック体は、九小協大会での提案地区

②宮古・八重山地区は、一つの分科会を担当し、他の地区は、二つの分科会を担当する。なお、宮古地区会員数の関係から分科会においては1名参加の場合もある。その際、分科会レポートなしの場合も有り得る。

③九小協での提案地区を優先する。研究の深化に鑑み、可能な範囲で2カ年間の継続研究とするが九小協との関連から変更も有り得る。※令和3年度は、全九中沖縄大会の為、小学校は単独開催となる。

(2) 中学校

分科会	領域	平成30年度 (島尻)	令和元年度 (国頭)	令和2年度 (中頭)	令和3年度	令和4年度 (島尻)	令和5年度 (国頭)	令和6年度 (中頭) ※中単独開催	令和7年度 (那覇)
	全九中開催県	熊本	佐賀	長崎	沖縄	福岡	大分 全日中大会	宮崎	熊本
第1分科会	「教育課程」	八重山	那覇	<u>中頭</u>	全九中 沖縄大会 ◆第1分科会 で 島尻 地区提案	八重山	<u>八重山</u>	那覇	那覇
第2分科会	「確かな学力」	島尻	<u>八重山</u>	国頭		島尻	島尻	八重山	八重山
第3分科会	「豊かな心」 「健やかな身体」	中頭	島尻	八重山		那覇	国頭	<u>国頭</u>	中頭
第4分科会	「自らの生き方」	那覇	中頭	<u>那覇</u>		中頭	那覇	宮古	<u>島尻</u>
第5分科会	「学校経営」	宮古	<u>国頭</u>	島尻		<u>宮古</u>	宮古	島尻	国頭
第6分科会	「人材育成」	国頭	宮古	宮古		国頭	中頭	<u>中頭</u>	宮古

①特ゴシック体は、全九中大会における提案地区 ②令和4年度以降は、研究の深まりを考え2カ年間の継続研究とする。但し、令和4年度以降の割り振りは、全九中・全日中大会提案を優先し、前年度からその分科会を担当する。③令和6年度は、九小協沖縄大会の為、中学校は単独開催となる。④令和2年度 第4分科会 那覇 は、全日中大会(和歌山大会)における提案となる。

1.4 分科会研究分担・会場及び各地区参加割り当て

(1) 小学校

分科会 会場	領域 提案地区	国 頭	中 頭	那 覇	島 尻	宮 古	八 重 山	合 計
第1分科会 名護中央公民館(第1・2研修室)	「経営ビジョン」 (国頭)	4	6	5	3	1	2	21
第2分科会 名護中央公民館(小ホール)	「組織・運営」「評価・改善」 (島尻)	3	6	6	5	2	3	25
第3分科会 名護市労働福祉センター(ホール)	「知性・創造性」 (那覇)	4	6	4	3	1	2	20
第4分科会 名護市労働福祉センター(会議室1)	「豊かな人間性」「健やかな体」 (中頭)	3	7	7	3	2	2	24
第5分科会 名護市労働福祉センター(会議室2)	「研究・研修」 (国頭)	4	6	6	4	1	2	23
第6分科会 21世紀の森体育館(第1会議室)	「リーダー育成」 (宮古)	4	5	6	3	2	3	23
第7分科会 21世紀の森体育館(第2会議室)	「学校安全」「危機対応」 (中頭)	4	6	4	3	2	2	21
第8分科会 21世紀の森体育館(ミテイングルーム1)	「社会形成能力」 (那覇)	3	6	4	4	1	2	20
第9分科会 21世紀の森体育館(ミテイングルーム2)	「自立と共生」「連携・接続」 (八重山)	3	6	8	4	2	3	25
第10分科会 あけみおSKYドーム(会議室)	「学力向上推進」 (島尻)	4	7	3	5	2	3	24
合 計		36	61	53	37	16	24	227

(2) 中学校

分科会 会場	領域 提案地区	国 頭	中 頭	那 覇	島 尻	宮 古	八 重 山	合 計
第1分科会 北部生涯学習センター(研修室1)	「教育課程」 (那覇)	4	6	4	4	2	4	24
第2分科会 北部生涯学習センター(研修室2)	「確かな学力」 (八重山)	4	6	4	5	3	3	25
第3分科会 北部生涯学習センター(研修室3)	「豊かな心」「健やかな身体」 (島尻)	3	6	5	4	2	3	23
第4分科会 北部生涯学習センター(研修室4)	「自らの生き方」 (中頭)	4	6	4	4	2	3	23
第5分科会 北部生涯学習センター(研修室6)	「学校経営」 (国頭)	4	6	4	4	3	3	24
第6分科会 北部生涯学習センター(研修室7)	「人材育成」 (宮古)	3	6	5	4	2	3	23
合 計		22	36	26	25	14	19	142

1 5 分科会の研究主題・協議題

(1) 小学校分科会

第1分科会 「経営ビジョン」(国 頭)

先見性のあるビジョンに基づく創意ある学校経営の推進

〔趣旨〕

今日、知識基盤社会やグローバル化の進展は、政治や経済、文化などのあらゆる領域に影響を及ぼしており、社会構造そのものが大きく変化し、学校教育に寄せる期待も多様化している。このような中、新学習指導要領が改訂され、これからの時代に求められる教育を実現するためには、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、学校と社会との連携及び協働のもと、教育活動が展開されていくことがより一層求められている。そのためには、「社会に開かれた教育課程の編成」が重要となり、学校経営においては、社会の変化を見極めて、「新たな知を拓く」教育を着実に推し進めていく必要がある。

また、校長は、保護者や地域住民の声を確実に捉えながら、これからの社会を生き抜く子どもの望ましい姿を思い描き、その育成に向け、先見性のある経営ビジョンを策定することが重要となる。さらに、校長の強いリーダーシップの下、教員の職務に対する誇りと使命感を大切にしながら、未来へ向かって夢と希望をもち、たくましく生きる力をもった子どもを育てる教育活動を組織的・計画的に進めていかなければならない。

本分科会では、これからの未来をたくましく生きる力をもった子どもを育てるための明確な経営ビジョンを掲げ、マネジメント能力を発揮し、学校や地域の特色を生かして、子ども一人一人の夢と希望の実現に向けた創意ある学校経営を推進するため、その具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定
- ② 学校経営ビジョンに基づく創意ある学校経営の推進

第2分科会 「組織・運営」「評価・改善」(島 尻)

学校経営ビジョンの具現化を図る組織づくりと運営 並びに学校教育の充実を図る評価・改善の推進

〔趣旨〕

今日、知識基盤社会の進展やグローバル化の進行等により、社会状況は急激に変化している。このような中、校長は、「新たな知を拓く」教育を実現するために掲げた学校経営ビジョンの実現に向け、活力ある組織・運営体制を築いていく必要がある。そのためには、学校組織を刷新し活気ある組織づくりを行うとともに、教職員一人一人が協働意識と参画意識をもって組織を機能させるようにしていかなければならない。

また、校長は、学校経営ビジョンに基づく確かな学校経営と教育実践を進めるとともに、絶えずその評価・改善に取り組み、学校教育の更なる充実に努めていく必要がある。そのためには、評価をマネジメント・サイクルの重要な観点として位置付け、改善に向けたより実効性のあるものとしていかなければならない。さらには、教職員評価システムも踏まえつつ、自校の教職員に対する適切な指導や助言が、個々の意識改革や資質・能力の向上、学校組織全体の成長・発展につながるようにしていかなければならない。

本分科会では、校長の示す学校経営ビジョンの具現化を図るための組織づくりと運営並びに学校経営の充実を図る評価・改善の具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 学校経営ビジョンの具現化に向けた活力ある組織づくりと学校運営の推進
- ② 「新たな知を拓く」教育を確かなものとする学校経営の評価・改善と学校評価・教職員評価システムを生かした学校経営の評価・改善

第3分科会 「知性・創造性」(那 覇)

知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント

〔趣旨〕

今日、インターネットで情報を容易に得ることができたり、AI(人工知能)の実用化が進んだりしており、暮らしはもとより産業や経済などあらゆる分野の変革の動きが加速し、知識基盤社会やグローバル化も確実に進展している。このような中、子どもには、自他としっかり向き合いながら自分を見失うことなく、社会の変化に柔軟に対応し、自信をもって自らの夢と希望の実現に向け、たくましく生き抜く力を身に付けていくことが求められている。

また、このような中、新学習指導要領も単なる知識や技能の獲得に留まらず、時代を先取りし新たな課題に果敢に挑戦しながら、主体的に解決することを求めている。そのため、学校教育では、子どもに多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化に対応し乗り越えることができる柔軟な思考力や判断力、表現力を身に付けさせることが必要になる。さらには新しい見方や考え方で新たな価値を創造できる資質・能力を獲得させていくことが不可欠であり、そのためのカリキュラム・マネジメントの確立が強く求められている。

本分科会では、子どもが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるように、校長のリーダーシップの下、「新たな知を拓く」教育課程の工夫と、自らの生き方に自信をもち、夢と希望を育む教育活動を推進する上での具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 「新たな知を拓く」教育課程の工夫
- ② 自らの生き方に自信をもち、夢と希望を育む教育活動の推進

第4分科会 「豊かな人間性」「健やかな体」(中 頭)

豊かな人間性と健やかな体を育むカリキュラム・マネジメント

〔趣旨〕

今日、グローバル化の進展に伴い、文化や習慣、価値観の多様化が進む中、未来を担う子どもが自らの夢や目標の実現を図るために、学力や体力の向上はもちろん、自律的態度の確立を促すこと、互いを思いやり尊重する態度や感動する心など豊かな人間性を育むことが大切である。そのため、学校においては、全教育活動を通して体験活動を推進することや、人権教育や道徳教育を基盤とした心の教育の充実を図ることが強く求められている。

また、近年の急速な社会環境や生活環境の変化は、物質的な豊かさをもたらしている反面、精神的なストレスの増大や生活習慣病の増加など、心身両面で問題を生み出している。学校においても、体力・運動能力の低下やアレルギー性疾患、いじめや不登校等、子どもの心と体の健康に関わる様々な課題が生じている。校長としては、このようなことを踏まえ、課題解決を進める指導態勢の構築と社会の変化に対応した取組の充実を図る必要がある。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、豊かな人間性を育むための心の教育の実践、並びに未来をたくましく生き抜くための体づくりと健康づくりを推進するためのカリキュラム・マネジメントについて、具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 新たな社会を見据えた人権教育と豊かな心を育てる道徳教育の推進
- ② たくましく生きるための体づくりを図った教育活動の推進と主体的・実践的な能力や態度を育む健康づくりの推進

第5分科会 「研究・研修」(国 頭)

学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

〔趣旨〕

知識基盤社会やグローバル化が進展し、社会構造に大きな変化が見られる中、「持続可能な社会」を実現させるために必要な資質・能力の育成や、多様な人間関係を構築していく力や習慣の育成等が重要となっている。このような社会の急激な変化や時代のニーズに応え、学校教育の使命・責務を果たすためには、学校の教育力の向上・充実が急務である。

これらのことを踏まえ、校長は、確かな先見性と洞察力を身に付け、自校の課題を明らかにしながら、教職員が教職に対する使命感や責任感、探究心を持ち、職務やキャリアステージに応じて求められる資質・能力を生涯にわたって高めていけるよう展望をもたせるとともに、学校経営への参画意識が高まるように研究・研修体制を充実することが重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、教職員にキャリアステージを意識した展望や学校経営への参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立とその推進について、その具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 教員の資質・能力の向上を目指して研究・研修体制の充実
- ② キャリアステージを意識した展望や学校経営への参画意識をもたせる研修の推進

第6分科会 「リーダー育成」(宮 古)

これからの学校を担うリーダーの育成

〔趣旨〕

今日、学校には、「新たな知を拓く」教育の実践や様々な教育課題への対応が求められ、その解決に向け、学校の教育力を高めていくことが重要になっている。学校教育目標等の具現化に向けて、教職員一人一人の力量を高め、学校組織としての教育力を向上させていくことが学校経営の重要課題である。そのためには、学校を組織的に運営していくための大きな役割を果たすミドルリーダーの存在がますます重要になっており、その育成が急務である。

また、校長は、教職員一人一人の特性を把握し、必要とされる資質・能力を具備した人材を発掘して、意図的・計画的に育成していくことが重要である。特に、組織的な学校運営を推進していくためには、学校全体を統括・指導する有能な管理職人材の存在が不可欠となり、このような人材を計画的に育成していく必要がある。その際、校務分掌を通して幅広い経験をさせるとともに、経営感覚を育むことなどが重要である。

本分科会では、学校教育への確かな展望と実践力を身に付けたミドルリーダーや時代の変化をとらえる能力と豊かな人間性を身に付けた管理職人材を育成するため、その具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 学校教育への確かな展望を持ち、行動できるミドルリーダーの育成
- ② 時代の変化をとらえる能力と豊かな人間性を身に付けた管理職人材の育成

第7分科会 「学校安全」「危機対応」（中 頭）

命を守る安全・防災教育の推進並びに様々な危機への対応

〔趣旨〕

未曾有の大被害をもたらした東日本大震災以降、国民の防災意識は確実に高まってきている。近年は、台風や局地的豪雨による土砂崩れや洪水、火山噴火等の自然災害が毎年各地で起きるとともに、猛暑による熱中症も頻発し、その対策も喫緊の課題となっている。また、通学路等における不審者の声かけ事案やわいせつ事案、交通事故など、子どもが被害者となる事案や事故の発生も後を絶たない。さらに、人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下等、子どもを取り巻く環境は、子どもの意識に変化をもたらし、暴力行為やいじめ、不登校等といった問題行動の一因となっていると考えられる。

そのため、学校では、組織的・計画的な安全教育・防災教育を推進するとともに、多様化・深刻化する危機に備え、日頃から危機管理体制の整備、危機発生時の未然防止、危機発生時の対応、並びに再発防止等の適切な対応を行っていくことが重要である。

校長は、教職員の危機管理意識をより一層高めるとともに、自然や社会の変化を踏まえた危機管理体制の確立を図ることが求められている。そのためには、家庭・地域・関係機関との連携をより一層強化し、組織的に迅速かつ的確に対応できるようにしていかなければならない。

本分科会では、子どもの安全安心を確保し、危機を回避する能力を育む教育の充実と、学校危機への計画的・組織的な対応を進め、危機に強い学校づくりの具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 危機回避能力を育む安全教育・防災教育の充実と地域や関係機関との連携を図った安全教育・防災教育の推進
- ② いじめや不登校等に適切に対応できる体制の整備と高い危機管理能力をもつ組織・体制づくり

第8分科会 「社会形成能力」（那 覇）

社会形成能力を育む教育の推進

〔趣旨〕

これからの社会は、「将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会」「AI（人工知能）等の導入により、子どもが今なりたい職業は将来存在しないかもしれない社会」など、産業・経済の構造的変化、雇用体制の多様化・流動化による社会環境の大きな変化が予測される。このような社会の到来は、子ども自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしている。とどまることなく変化する社会の中で、子どもが夢や目標をもって積極的に自分の将来を切り拓いて生きていくためには、社会の変化を恐れず粘り強く前進し、失敗しても諦めず変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠である。

そこで、学校においては、これからの社会を創りあげていくために必要な知性と創造性ととともに、豊かな人間性を身に付けさせるために、他者を認めつつ、他者と協力することの大切さを教え、よりよい社会を協働して形成しようとする態度や能力を育む必要がある。

校長は、キャリア教育等の視点を取り入れた教育活動により、社会的・職業的自立に必要な基礎的・汎用的能力等、子どもに生きる力の基礎を積極的に身に付けさせなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、特別活動を要しつつ教科等で身に付けた知識・技能等を基に、よりよい社会の形成に向け、主体性をもって社会に参画し、課題解決を図る能力や態度などを育むための具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 社会に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育の推進
- ② 自立・協働・創造の心を育むキャリア教育の推進

第9分科会 「自立と共生」「連携・接続」(八重山)

自立と共生を図り実践的態度を育む教育の推進並びに家庭・地域等との連携

〔趣旨〕

今日、学校においては、子どもが障がいの有無にかかわらず共に生活する中で、分け隔て無く相互に人格や個性を尊重し合う教育が求められている。とりわけ、特別な支援を要する子どもに、その教育的ニーズに応え、将来の自立に向けての基礎を培っていかなければならない。そのためには、校長が特別支援教育に対する理解を深め、関係機関との連携に基づく支援体制の充実を図っていくことが大切である。

また、規範意識や他者とのコミュニケーション力が十分身に付いていないことが、いじめ等の問題行動の要因の一つになっており、主体的に地域に関わろうとする子どもの育成並びに生徒指導上の課題へ対応するためには、学校・家庭・地域等が一体となった地域基盤を再構築することが求められている。

本分科会では、子どもの自立を図るための特別支援教育並びに子ども一人一人の将来を見据え、家庭・地域等との連携を推進するための具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 子どもの自立を図る特別支援教育の推進
- ② 家庭・地域等と連携し充実した教育活動を展開できる学校づくりの推進

第10分科会 「学力向上推進」(島 尻)

「夢」を育む学力の向上を推進する校長の理念と指導性

〔趣旨〕

今日、国際化・情報化の進展など社会の変化と科学技術の進展には目覚ましいものがあり、今後一層、その変化や進展が加速されるものと予測される。このような急激な社会の変化の中で、学力向上においては、これから求められる資質・能力を明確にし、それらを育成するための授業の在り方を模索していく必要がある。

文部科学省は新学習指導要領への移行に向けて学習内容に加え、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善を提唱するなど指導方法についても言及している。本県でも学力向上主要施策「学力向上推進プロジェクト」等を策定し、「授業改善」の取組を支える「6つの方策」を示し、県全体で方向性をひとつにした学力向上の取組を推進している。

本分科会では、国や県及び各学校のこれまでの取組の成果や課題を踏まえ、子どもの「確かな学力」の向上を目指し、より具体的で実効性のある教育実践の在り方に関する校長の理念と指導性についての具体的方策を明らかにする。

《 協議題 》

- ① 確かな学力の向上を推進する実効性のある具体的方策の在り方
- ② 家庭・地域社会と連携した学力向上の在り方

(2) 中学校分科会

第1分科会 「教育課程」(那 覇)

カリキュラム・マネジメントの推進

〔趣旨〕

校長は、生徒、学校、地域の確かな現状把握に基づいた学校教育目標を設定しなければならない。そして、その実現に向けて明確なビジョンを示し、教育課程を編成・実施・評価・改善していくカリキュラム・マネジメントに努めなければならない。カリキュラム・マネジメントにおいては、教科横断的な視点で教科内容を組織的に配列することや、家庭や地域社会との連携を深め、外部を含めた人的・物的資源を取り入れるなどして社会に開かれた教育課程を効果的に実践することが求められている。また、そうした教育課程を毎年積み重ねて充実させるためには、カリキュラム・マネジメントにPDCAサイクルを確立することが急務となっている。

校長のカリキュラム・マネジメントが、各学年、各学級、各教科等に浸透し、全職員が協働する体制づくりを目指したい。

このような視点から、校長としての具体的な関わり方を論じ、協議題に迫る学校経営の展望を究明し共有する。

《 協議題 》

- ① 教科横断的な視点を含めた教育課程の編成・実施・評価・改善の在り方
- ② 社会に開かれた教育課程の実践の在り方

第2分科会 「確かな学力」(八重山)

主体的・対話的で深い学びの実現

〔趣旨〕

予測困難で急激に変化していく社会を切り拓いていくには、未知の状況においても主体的に考え、他と協働し、よりよく問題を解決していく人材が求められており、その育成は急務といえる。そのため授業では、育成すべき資質・能力を、各教科等の見方・考え方に基づいてスパイラルに育成していくことを意識し、「どのように学か」という主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を実現することが求められている。

今回、育成すべき資質・能力は、幼・小・中・高と全教科等において明確化された。教職員が教科の壁を乗り越え、相互に高め合う研修や、授業評価の視点を共有化するなど、学校組織として体制づくりを行い、授業を工夫改善していくことが必要である。

このような視点から、校長としての具体的な関わり方を論じ、協議題に迫る学校経営の展望を究明し共有する。

《 協議題 》

- ① 主体的・対話的で深い学びの授業実践に向かう学校全体の体制づくり
- ② 各教科等の学習状況の把握及び授業の評価・改善の在り方

第3分科会 「豊かな心」「健やかな身体」（島 尻）

よりよく生きるための道徳性や健康・体力を育む教育の充実

〔趣旨〕

急激に変化する社会にあって、青少年の規範意識や人間関係を形成する力が低下し、そのことが生命軽視の言動につながり、いじめなどの社会的な問題となることもある。これからの社会においては、なおいっそう生徒一人一人に、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を身に付けさせることが大切である。そのためには、他教科等との関連を図りながら、「特別の教科 道徳」において、物事を多面的・多角的に考え、議論していく授業を実施できるよう、校内の指導体制を充実させることが重要である。また、道徳的諸価値について自覚を深める活動の充実を図ることが必要である。

体力は人間の活動の源であり、健康維持や精神面の充実に大きく関わっている。生徒がこれからの社会を生きていくためには、健やかな身体の育成と体力の向上、生涯にわたってスポーツに親しむ資質・能力を育てることは極めて重要である。食育やアレルギー対応、心身の健康の保持増進に関する健康教育のいっそうの推進を図るとともに、安全教育や防災教育及び現代的健康課題に取り組むことも必要である。

このような視点から、校長としての具体的な関わり方を論じ、協議題に迫る学校経営の展望を究明し共有する。

《 協議題 》

- ① よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実
- ② 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実

第4分科会 「自らの生き方」（中 頭）

自己理解を促し、将来にわたって人としての生き方を深める生徒指導と

キャリア教育の充実

〔趣旨〕

いじめや問題行動、不登校、インターネット上のトラブルなど生徒を取り巻く問題が深刻化している。学校は、生徒の健全な成長を図るために、これらの問題解決に喫緊に取り組む必要がある。生徒指導は、集団や社会の一員としてよりよい生活や望ましい人間関係を築く基盤であり、人間としての望ましい生き方についての自覚を深め、自己指導能力を育成することがねらいである。様々な問題に対応するために、各学校での組織的、継続的な取組をさらに充実させることが重要である。

現在、変化の予測が難しい時代が訪れており、今後さらに加速することが想像できる。そこで、生徒が自らの可能性を最大限に発揮し、協働や対話をもとに社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、自らの生き方を模索することは、キャリア教育の大きな役割である。

これらのことから、個々の生徒の個性の伸長を図りながら、社会的・職業的自立を図るための基礎的・汎用的能力を身に付けさせ、キャリア発達を促さなければならない。

このような視点から、校長としての具体的な関わり方を論じ、協議題に迫る学校経営の展望を究明し共有する。

《 協議題 》

- ① 他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実
- ② 基礎的・汎用的能力を育成するためのキャリア教育の充実

第5分科会 「学校経営」(国 頭)

地域や専門機関との連携・協働による「チーム学校」の実現とその機能強化

〔趣旨〕

学校では、今日の複雑化・多様化した教育課題に対し、生徒の豊かな学びを実現するために、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、支援員、部活動指導員などの教員以外の専門性をもつ人材や地域との連携がこれまで以上に必要とされている。これからは、教職員のよりいっそうの組織的な対応力を高めることはもちろん、専門性をもつ学校以外の人材と積極的に協働する体制をつくることが求められている。多様な人材がそれぞれの専門性を生かして能力を発揮するチームとしての学校を実現し、その機能を強化する必要がある。また、コミュニティ・スクールなどの仕組みを活用するなど、学校と地域との連携を強力に推し進め、地域社会とともに教育を進めていくことも求められている。

「チーム学校」の実現とその機能強化のため、校長は、専門性に基づくチーム体制の構築や学校のマネジメント機能の強化、教職員一人一人が力を発揮できる環境の整備などを目指して学校経営を行っていく必要がある。

このような視点から、校長としての具体的な関わり方を論じ、協議題に迫る学校経営の展望を究明し共有する。

《 協議題 》

- ① 「チーム学校」(チームとしての学校と地域との連携・協働体制)構築の在り方
- ② 教職員の力量を高め、チームとしての組織力を高める学校マネジメントの在り方

第6分科会 「人材育成」(宮 古)

多様化した教育課題に対応できる教員の育成

〔趣旨〕

社会構造の急激な変化や、価値観の多様化に伴い学校が直面する教育課題も多様化している。学校においては、教員の大量退職・大量採用時代を迎え、教員の年齢構成や経験年数に偏りが生じ、若手教員の早期育成やベテラン教員の活用、ミドルリーダーの育成が喫緊の課題となっている。そのためには、種々の研修を通して実践的な指導力の向上を図ることが重要である。

また、校長が人事評価を活用し、教育の専門家として主体的により高い資質・能力を身に付ける(キャリアアップ)人材の育成も急務である。

このような視点から、校長としての具体的な関わり方を論じ、協議題に迫る学校経営の展望を究明し共有する。

《 協議題 》

- ① 専門性と指導力を発揮する教員育成のための研修の在り方
- ② 学校経営に積極的に参画する教員育成のための人事評価の在り方

16 分科会研究分担、役員及び研究の進め方等について

(1) 司会者、提案者、記録係は各分科領域担当地区が担当する。(提案者1名、司会者2名、記録者2)

(2) 各分科会の運営委員は会場地区(国頭)が担当する。

(3) 分科会への地区会員の参加は、提案する分科を主とし、各分科に参加する。

(4) 分科会提案地区の研究部長は、提案分科会が二つの協議題のうちどちらについて研究を進めるか決定し、5月中に県研究部長(小:山里昌樹(さつき小)中:比嘉清喜(伊良波中)まで報告する。
報告がまとまり次第、県研究部長は各地区研究部長に周知する。

(5) 各地区の研究報告書のまとめ方

① 分科会提案地区: 校長会指定の原稿4ページにまとめる。

※原稿執筆要領、留意事項 様式はPO~POを参照のこと。

※分科会提案資料(原稿)提出日**9月6日(金)**までに完了する。

② 分科会提案地区以外: 校長会指定の原稿2~4ページにまとめる。

※事前資料提出**9月27日(金)**までに2部(共同研究者用)を各地区研究部でまとめて県事務局へ提出。

※当日持参資料部数は、各分科会参加人数プラス5部。

(6) 各分科会の司会者、提案者、記録係、(学校名、氏名)、各分科会への参加者名簿(学校名、氏名)の県事務局への各地区からの報告は、**6月7日(金)**までに完了する

※ 全ての提出物は期限を厳守

17 校長会研究大会（全国・九州・沖縄） 開催地・担当地区割当計画

(1) 沖縄県小・中学校長研究大会

年度	H27	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
担当地区	国頭 中単独	中頭	那覇	島尻	国頭	中頭	全九中沖縄大会 (小単独大会) 小：那覇	島尻	国頭	九小協沖縄大会 (中単独開催)

※ 令和3・6年度は、全九中、九小協沖縄大会に包含するため、単独大会とする。

(2) 九州地区小学校長協議会研究大会・全国連合小学校長会研究協議会研究大会

年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	
九小協大会	開催県	沖縄	熊本	佐賀(全)	鹿児島	宮崎	大分	福岡	長崎	佐賀	沖縄
	担当地区・分科領域	島尻 第1-1	八重山 第3-2 国頭 第5-2	中頭 第6分科会 (提案・司会・運営を担当)	那覇 第2-1 島尻 第7-2 宮古 第9-1	国頭 第1-2 中頭 第4-2 那覇 第8-2	島尻 第2-2 宮古 第6-2 八重山 第9-2	国頭 第3-1 那覇 第7-1 中頭 第8-1	島尻 第4-2 八重山 第6-2 宮古 第7-2	国頭 第1-1	中頭 第3-2
	議長	宮古									
全連小大会	開催県	山口	高知	佐賀	北海道	秋田	京都	石川			
	担当県	熊本 長崎	佐賀 鹿児島	九州各県 第6分科 (沖縄)	沖縄 宮崎	大分 福岡	長崎 熊本	鹿児島 佐賀			
	分科領域				八重山						

※ 担当地区順 国頭 → 中頭 → 那覇 → 島尻 → 宮古 → 八重山

※ 九小協と全連小の発表のある年度は九小協→全連小と地区順を決定する

※ 令和2年度全連小京都大会より

新大会主題「自ら未来を拓き ともに豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

(3) 全九州地区中学校長会研究大会・全日本中学校長研究大会

年度	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	
全九中	開催県	沖縄	福岡 全国大会	宮崎	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	沖縄	福岡	大分 (全国大会)
	担当地区・分科領域	宮古 第1①	第1分科	八重山 第2① 国頭 第4①	那覇 第3① 島尻 第5①	宮古 第6②	八重山 第2② 国頭 第5②	中頭 第1②	島尻 第1①	宮古 第5①	全日中 大分大会 八重山 第1②
全日中	担当	北海道	大分 熊本	宮城	東京	鳥取	群馬	和歌山	静岡	北海道	
	分科領域			中頭 第8分科				那覇 第4分科			

※ 担当地区順 国頭 → 中頭 → 那覇 → 島尻 → 宮古 → 八重山

※ 全九中と全日中の発表のある年度は全九中→全日中と地区順を決定する

※ 令和元年度全日中群馬大会より

大会主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」

18 業務分担一覧

	大会事前準備	大会当日の業務	事後の業務
開催地区	1 会場借用・申請（全体会場・分科会会場、他） 2 会場設営・席づくり（式典会場、分科会会場、他） 3 浄書（諸表示等） ① 式典・全体会の表示（来賓、大会役員、講師、提言者、発表者、司会等） ② 会場案内（各事務所長、共同研究者、会員席） ③ 来賓控室 ④ 会員名札作成 ⑤ 分科会場（分科会担当者、参加地区会員） ⑥ 受付関係表示 ⑦ 会場案内関係 4 湯茶・弁当の配布計画等 5 放送施設の準備 6 盆栽（盛り花）、水差し・おしぼり等 7 消耗品（表示用等）準備 8 接遇関係 9 教育懇談会の計画・運営（持ち方、表示関係）等 10 講演講師の推薦・連絡調整・謝礼金（講師への依頼状は県事務局から送付） 11 アンケートの準備 12 開催地区首長等の表敬訪問調整、他会場下見準備 13 会場表示の作成（全体会横断幕、分科会テーマ） 14 全体会懸垂幕（大会主題、教育長講話、記念講演）	1 受付（要録配布、出席簿）の確認 各地区事務担当者で行う 2 湯茶・弁当配布計画 3 式典関係 放送機器、照明等、ステージの準備、国歌斉唱関係、挨拶文の受理 4 接遇関係（来賓） 5 水差し・おしぼり ・教育長講話・記念講演 6 大会記録（テープ録音取り） ・開会式 ・教育長講話 ・記念講演 ・全体会 ・閉会式 7 講師対応・謝礼とお礼（花束・記念品等準備）	1 関係者へのお礼 2 実行委員会総括 3 収録後、テープは県事務局へ 4 来賓・大会長等の挨拶文は県事務局へ 5 アンケート実施とまとめ
県総務部	1 大会組織 2 大会役員構成と委嘱 3 大会宣言文作成 4 記念講演関係（講師の選定等） 5 議長団選出 6 運営要領の作成 7 広報関係等の連絡 8 研究紀要に基づく発表の世話 9 全体協議会の運営及び部・委員会発表者との打合せ 10 行政説明の依頼・調整	1 大会全体会の運営 2 宣言文報告 3 記録関係（開催地区と連携） ①開会式・閉会式・教育長講話 ②記念講演	1 大会の総括 2 次期開催地区への引継の準備
県研究部	1 大会の企画（主題・趣旨・分科会テーマ） 2 大会までの会合スケジュール 3 研究分担 4 大会開催要項・要録の発行、大会主題趣旨 5 大会当日の日程・業務分担作成 6 分科会運営委員会（事前打合せ）の運営	1 全体会・分科会の運営 ①分科会参観・配車等 ②来賓の接遇関係 2 大会集録の資料収集・保管 3 講師の送迎（開催地区と調整）	1 大会要録
教育庁	1 分科会共同研究者の編成と依頼 2 予算獲得（指定旅費等） 3 来賓及び大会役員の接遇関係 4 各学校長への大会参加への公文 5 分科会参観の計画（随行日程の作成）	1 接遇関係（式典への案内等） 2 教育長挨拶の原稿 3 分科会参観、懇談会への案内等	
県事務局	1 本部事務局会議 2 諸会合の調整・世話 3 会場地区との連携 4 予算措置と出納 5 各校長への通知 6 各種礼状 7 関係者への案内状・依頼状 8 マスコミ手配 9 県教委との連携 10 会員出席名簿作成 11 大会当日の受付の連絡（各地区2名） 12 記章・胸章の準備（大会前日、開催地区担当へ） 13 分科会記録用紙の準備（ 〃 ） 14 国旗・県旗・会旗準備（ 〃 ） 15 録音テープ準備（ 〃 ）	1 本部の庶務関係 2 会計担当する事項の確認・相談 3 出席簿の準備、まとめ	1 関係者へのお礼 2 大会の総括 3 次期大会引継の準備（2月中）